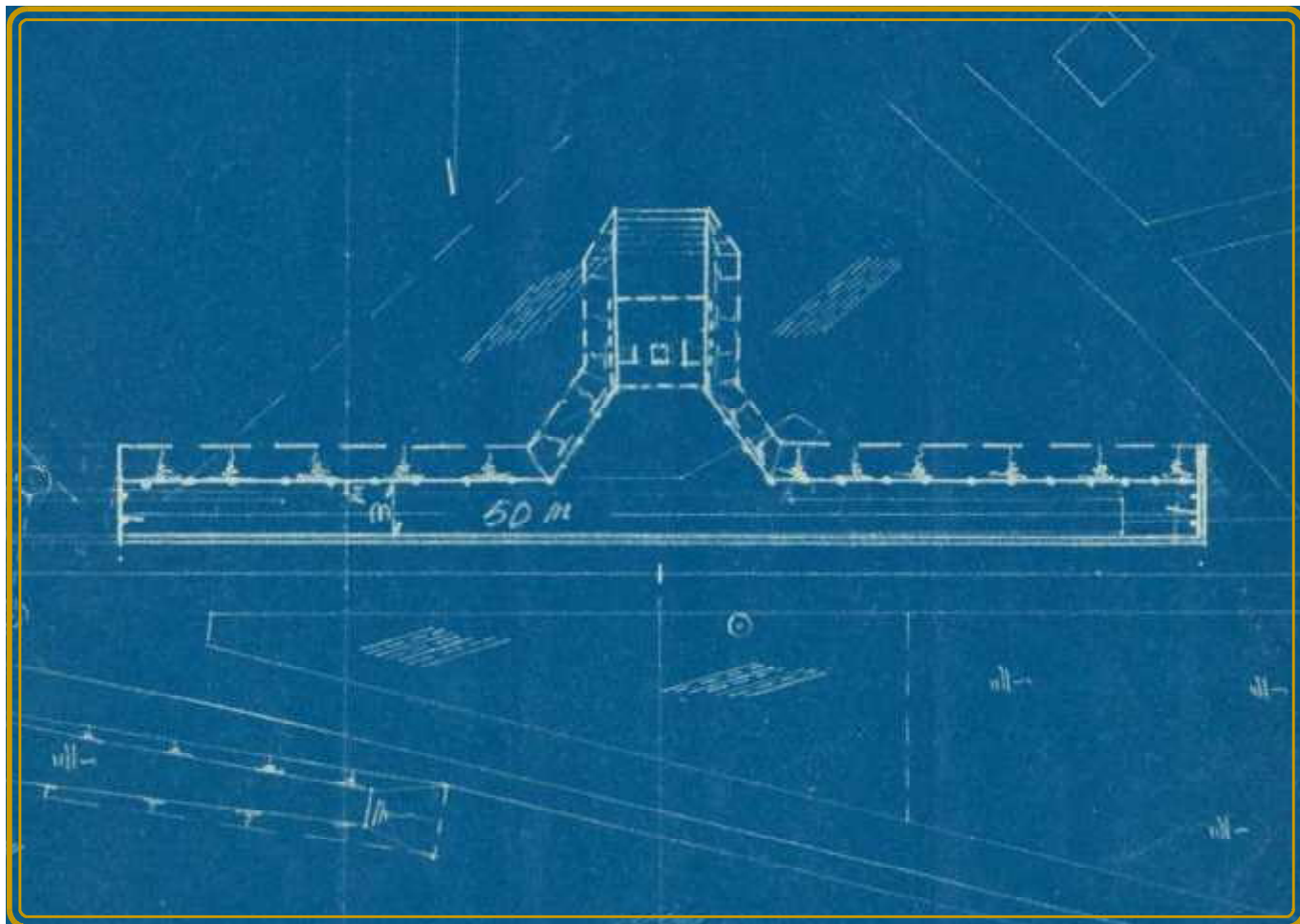


寒川文書館だより

Vol. 23



西寒川駅駅舎平面図（昭和35年、寒川町公文書）

■ 第23号目次 ■

資料紹介「西寒川駅駅舎平面図」	2
資料保存ワークショップ／絵はがき「宮山の風景」	3
企画展「昭和の広告マッチラベル」	4
文書館活用講座／ミニ展示「戊年のできごと」	5
田端自治会文書が寄託／ツイッター	6
文書館最近のできごと	7

第23号
2018.3.31
寒川文書館

西寒川駅駅舎平面図

(寒川町公文書「西寒川驛関係書類綴」より)

建設課の永年文書「西寒川驛関係書類綴」にある国鉄西寒川駅の平面図である。昭和35年(1960)に同駅が「復活」する際、この設計図に基づいて町が建設した。では「復活」とは何か、また国鉄の駅舎をなぜ町が造ったのか。この駅をめぐる複雑な歴史をたどっていくことにしたい。

相模線の前身である相模鉄道は、大正10年(1921)茅ヶ崎－寒川間で開業した。相模川の砂利運搬と旅客輸送を主な目的とした鉄道で、翌大正11年5月、寒川－四之宮間の貨物専用の支線も開業した。支線の終着駅では、現場で採掘された砂利をトラックから貨車に積み替える作業を行っていた。

さらに大正12年2月、この支線の間駅として東河原駅が開業。昭和15年に昭和産業駅と改称し、昭和産業一之宮工場への通勤客が乗降するようになった。同工場が海軍に買収されると「四之宮口」、「西寒川」と相次いで改称。旅客営業は昭和21年ごろまで続いた。

戦後は工場の物資輸送などに利用されたが、昭和35年に旅客営業を復活させることになる。「西寒川驛関係書類綴」にはその顛末が記されている。

発端は昭和33年ごろ「寒川町及日東タイヤ外四工場」から国鉄に対し復活の請願を行ったことによる。請願の文面は残されていないが、同年11月ごろに書かれた「理由書」にその背景が記されている。首都圏整備法が制定され、相模川沿岸一帯が工場地域となり、町内でも新たに工場が操業を開始。さらに誘致の構想もあるので、町の将来の発展のため、通勤客の足の確保、地域住民の交通の便のため復活を申請した、というものである。

正式決定は東京鉄道管理局長から町長に宛てた昭和34年8月15日付けの文書で通知された。その条件として、①旅客設備の工事費を町が負担し、完成後は国鉄に寄付すること、②駅前広場の用地を町が取得して国鉄に寄付すること、③駅に通じる道路なども町が新設または改修すること、などが挙げられた。駅前の用地はもともと旧相模海軍工廠の敷地だったため当時もなお国有地であり、その払い下げの手続きは大蔵省関東財務局と進めることになった。

町はこの条件を承諾し、同年11月18日、工事施行の決定がなされた。この決定通知に添付されたのが表紙の図面で、ホームの長さは50m・幅3m、改札の上家は16㎡という規模であった。町が負担した経費は、工事費負担金(土木・建築・信号工事)が1,286,000円、電気工事費190,000円、用地買収費502,710円、合計1,978,710円であった。

こうして西寒川駅は昭和35年11月15日に営業を再開した。しかし昭和59年3月31日をもって廃止となった。わずか20年あまりの営業期間であった。利用客の減少、寒川駅の橋上駅舎化、バス路線の整備、住民の意向などを総合的に判断した結果である。廃線後の線路敷は町が無償譲渡を受け、平成元年3月29日、一之宮緑道と八角広場として生まれ変わり、町民のいこいの場となっている。

この駅のたどった経過はミニ展示「西寒川駅と四之宮砂利支線」にまとめた。平成30年6月30日まで開催しているので、ぜひご覧いただきたい。

(高木秀彰)

資料保存ワークショップを開催

平成29年10月8日(日)、寒川総合体育館多目的室において、資料保存ワークショップを開催しました。神奈川地域資料保全ネットワークと共催で行うこのワークショップは平成25年9月に次いで4年ぶり2回目となります。今回のタイトルは「襖に閉じ込められた地域の歴史」。20名の参加者は3班に分かれ、襖の下貼りを剥がす実習、水損資料の手当を学ぶ実習、4年前に剥がした襖についての講義、という3つのメニューを体験していただきました。



常総市の公文書レスキューの講義



水損資料の手当の実習



襖下貼り剥がしの実習



前回ワークショップの結果報告

絵はがきシリーズ8・9 宮山の風景 を発行

絵はがきシリーズ「宮山の風景」を発行しました。倉見、一之宮に続く、風景の絵はがき集第3弾です。宮山地区は面積が広く、公共施設や史跡が多くあることから、古い写真の残る量も多いため、「建物編」と「街かど編」の2組とし、8枚ずつの計16枚を収録しました。封筒内には、撮影箇所の地図や現況写真を載せた解説を収めています。各500円。お求めは文書館窓口でどうぞ。



昭和の広告マッチラベルー寒川の商店と旅先の記憶ー

かつては生活必需品であったマッチ。その流通量は膨大であったため、箱のラベルは広告媒体として大きな役割を果たしており、店舗や商品のPRに広く使われました。

今回の展示では、岡田の三枝惣治さんが収集した6,500枚を超えるコレクションから、寒川町内はもちろん神奈川県内、全国に至る昭和のマッチラベルを紹介しました。

【会 期】平成29年10月7日(土)～平成30年2月28日(水)



会場の様子



アルバム(昭和32年)



選挙の啓発



柴山ラジオ店(寒川町)



梅屋(平塚市)

＜展示構成＞

- はじめに
- 日本のマッチの始まり
- 三枝惣治氏コレクション
- 広告マッチラベル
 - 店舗広告 商品広告 映画・ラジオ・テレビ
- 寒川町の広告
 - 田端 中瀬 大曲 小谷 倉見 小動
 - 宮山 一之宮 岡田
- 神奈川県内の広告
 - 横浜地域 川崎地域 横須賀三浦地域
 - 湘南地域 県央地域 県西地域
- 様々なマッチラベル
 - 自治体・諸団体 イベントの記憶
- シリーズを揃える
- 昭和初期のマッチラベル



昭和初期のマッチラベル

文書館活用講座を開講

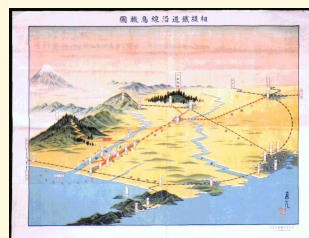
平成29年11月から30年2月にかけて「文書館活用講座」を開講しました。文書館で保存している多彩な資料をどのように使えば良いのか。そのコツを伝授する4回連続の講座です。3シーズン目となる今回は、相模線や、映像資料をテーマに取り上げるなどバラエティーに富んだ内容となりました。

第1回 「文書館って何だ？」（11月18日）



一般的な公文書館の役割について解説したのち、当館が成立するまでの経緯や、その母体となった町史編さん事業について説明しました。また、収蔵庫などバックヤードの見学会も行いました。

第2回 「相模線関係史料の調べ方」（12月16日）



相模線の歴史を概観したのち、当館が行った相模線に関する調査、展示、刊行物、講演会などの事業を解説。また、当館が収蔵する相模線関係史料を紹介しました。

第3回 「新聞資料を使おう」（1月28日）



当館は、神奈川新聞・タウンニュースなどの新聞資料を収集しています。その新聞資料の検索方法や、目録の利用方法を解説。実際に参加者が記事を探すワークショップも開催しました。

第4回 「映像資料をみる」（2月17日）



映像資料は、紙資料ではわからない情報を多く含む貴重な資料の一つです。その映像資料の特徴・種類について解説したのち、当館収蔵の映像資料の上映会を行いました。

ミニ展示 成年のできごと - 公文書が語る現代史⑧ -



会期：平成30年1月5日～3月30日

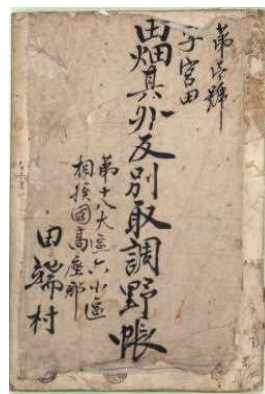
今年の干支は成年です。過去の成年にはどのような出来事があったのでしょうか。文書館収蔵の記録資料を用いて、昭和33年の寒川小学校で給食開始、平成18年の総合図書館・文書館の開館など「成年のできごと」を紹介しました。身近な出来事を通して日本の現代史や、文書館の収蔵資料に興味を持っていただくのが、本企画のねらいです。

田端自治会文書が寄託

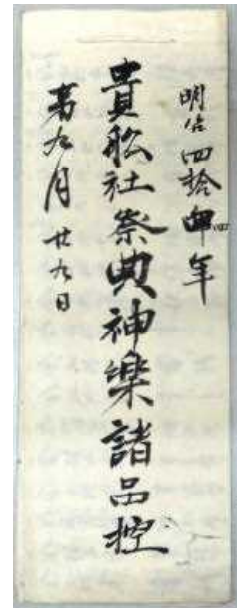
平成29年12月、田端自治会文書881点について寄託契約が整い、閲覧ができるようになりました。田端の皆さんが大切に残してきたもので、用水路、神社の祭礼、青年団、土地台帳など、宝永4年(1707)から昭和60年(1985)まで約270年にわたる地域の活動がわかる史料群です。また、井上有一の揮毫による旧田端児童館の看板も同時に寄託していただきました。文書館が責任をもって未来に向けて保存してまいります。利用方法などの詳細はカウンターにお尋ねください。



四之宮村との境界争論の証文(宝永5年=1705)



地租改正時の土地台帳
(明治8年=1875)



貴船神社祭典の経費控
(明治44年=1911)



井上有一揮毫の児童館看板(昭和46年=1971)



ツイッター ほぼ毎日更新中!

平成29年8月25日、文書館の公式ツイッターの運用を始めました。休館日を除き、ほぼ毎日、館の業務や資料にまつわる話題を写真付きでお届けしています。これまで当館と接点のなかった方にも、館のこと、資料のことを知っていただけるのがSNSの魅力です。これからも情報発信に努めてまいります。

反響の大きかった「つぶやき」はコチラ

	日付	内容	インプレッション	ツイート	いいね
1	2017. 8. 31	地区架の紹介	15,838	13	17
2	2017. 10. 3	資料保存ワークショップの告知	4,999	21	10
3	2017. 10. 8	資料保存ワークショップの報告	4,451	12	13
4	2017. 9. 19	寒川神社の流鏝馬神事	4,088	20	19
5	2017. 9. 28	相模線開業記念日	3,799	7	6

(2018年3月23日現在)

*インプレッション：閲覧回数、ツイート：自ページへの引用

URL https://twitter.com/samu_archives



2017年8月31日のツイートに載せた写真

文書館 最近のできごと

■全史料協全国大会 11月8日(木)・9日(金)



全史料協の全国大会が相模原市で開催されました。今回の大会は、公文書館法が昭和63年に施行されてから30年という節目の年に開催されるものでした。大会テーマは「公文書館法30年ー今、問われる公文書管理ー」。テーマに基づく報告や、座談会が行われました。

当館職員も研修会の講師として登壇し、「市町村アーカイブの役割」と題した講義を行いました。

■産業まつり 11月19日(日)



産業まつりに、藤沢市藤澤浮世絵館と当館が共同でブースを出展しました。藤澤浮世絵館は、浮世絵制作のワークショップを開催、この日のために版木を制作し、来場者に浮世絵の摺り体験に提供していました。当館は調査報告書や絵はがきなど刊行物を販売しました。

イベント当日は、天気にも恵まれ、多くの来場者で賑わいました。当ブースにも、たくさんのお客さんが来てくれました。

■神奈川大学日本常民文化研究所古文書修復実習 3月11日(日)・12日(月)



神奈川大学常民文化研究所が主催する古文書修復実習に参加しました。同講座では、古文書修復に必要な3つの行程(①記録・整理、②修復、③復原)を体系的に学ぶことができます。各行程とも専門家からレクチャー受けました。また、襖の下張文書の剥離作業の実習も行われました。

講座には、全国の資料取扱機関の職員など22名が参加し、各々知識の吸収に努めました。

■保存年限満了公文書の選別 3月9日(金)~20日(火)



公文書の評価選別作業を行いました。今年度の選別対象となった有期限の公文書は、平成19年度作成(10年保存)の文書48箱、平成24年度作成(5年保存)の文書154箱、平成26年度作成(3年保存)の文書92箱、合計294箱でした。文書館職員は、廃棄対象となる文書が作成された年度の町の取り組みや、世相を調査し、選別作業に臨みました。

選別の結果12箱を収集。収集した公文書は、歴史的公文書として文書館書庫に収蔵されます。

今後の事業予定

■平成30年度の行事予定

○第23回ミニ展示

「西寒川駅と四之宮砂利支線」

相模線にかつてあった西寒川駅について、その誕生から廃止までの複雑な歴史を解き明かします。

会期：平成30年3月24日(土)～6月30日(土)

* JR東日本・駅からハイキング「思い出の西寒川駅・寒川支線跡を訪ねる寒川歴史散歩」とのタイアップです。観光協会配布のマップをご持参の方には「特製しおり」をプレゼント。

○古文書講座「幕末維新の史料を読む」

明治維新150年にちなみ、幕末の寒川の社会や人びとの暮らしに関する古文書の読み方を勉強します。

日時：5月～10月の毎月第4土曜午前10時～正午

申込み：広報5月号、ホームページをご覧ください。

○茅ヶ崎市寒川町広域連携事業

企画展「幕末維新の寒川（仮称）」

茅ヶ崎市寒川町広域連携事業による展示の第4弾は、明治維新150年にちなみ、町域の幕末から明治初期の動向について紹介します。

会期：平成30年7月21日(土)～8月31日(金)

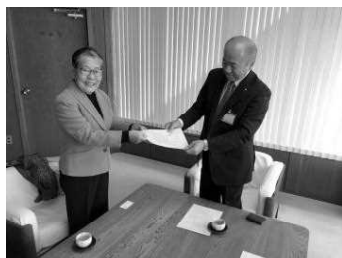
*他に、資料保存ワークショップ、講演会などを開催する予定です。日時、会場、申込み方法など、詳しくは「広報さむかわ」、文書館のホームページ、チラシなどをご覧ください。

編集後記

「寒川文書館だより」第23号をお届けします。

今号はワークショップ、企画展、ミニ展示、文書館活用講座、寄託資料など、話題満載となりました。

ところで2017年3月2日、文書館運営審議会会長小川千代子氏が町長に面会し、資料燻蒸に関する要望書を手渡しました。平成30年度予算案において燻蒸に関する委託事業費が大幅に減額されたことに対し、資料を後世に保存するという文書館の機能が十分に発揮できなくなることを懸念して委員連名でまとめたものです。この要望の趣旨を活かし、より良い保存の方策を検討してまいります。



利用案内

■開館時間が変わります

2018年7月3日から、平日、土日祝日とも、午前9時～午後5時に変更します。ご不便をおかけしますが、ご理解のほどお願いいたします。なお、前日までの事前予約で、平日の午後5時～7時に閲覧できる制度も設けます。詳細は決まり次第ホームページでお知らせします。

6月末までは次のとおりに開館します。

平日 午前9時～午後7時
土・日・祝日 午前9時～午後5時

■休館日

月曜日（国民の祝日にあたる場合は開館）

年末年始（12月29日～1月3日）

特別整理日

2018年は次のとおりとします。

6月12日(火)～16日(土)（蔵書点検のため）

10月2日(火)（システム入れ替えのため）

■交通のご案内

JR相模線 寒川駅下車 徒歩10分

寒川町コミュニティバス・

神奈中・相鉄バス 海老名駅～寒川駅線

「図書館文書館前」下車 徒歩1分

※なるべく公共交通機関か自転車、徒歩でお越しください。



寒川文書館だより 第23号

平成30年3月31日

編集・発行／寒川文書館

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1

TEL 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

ホームページ <http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

電子メール bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp